

体験的活動を取り入れた税金の学習

小国町立小国小学校教諭 6学年 嘉藤 健汰

実施年月日：令和5年5月8日～令和5年5月25日 28名

1 実践計画・指導のねらい

子どもたちは普段の生活の中で何気なく消費税等を支払っているが、なぜ税金は集められるのか、どんなことに使われているのかということに関して、知っている児童はほとんどいない。今回の単元では、税についての学習と自分の生活とのつながりに気づき考える活動を重点に行っていく。その中で、税金を正しく使うために、選挙で代表を選ぶ大切さなどにも気づかせたい。そして、話し合い活動や税金を用いた街づくり体験などの学習を通し、身近な生活や社会への興味・関心を高めていきたいと考えた。

2 単元構成・実際の指導状況

時間	学習内容	主な発問 (○)、子どもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・税金とは何か、種類と使われ方について学ぶ。	○ 私たちの身近で、どんなことに税金が使われているでしょう。 ● 学校の物は税金で買っていると、聞いたことがある。 ● 警察の人の給料も税金から出ていると思う。 □ 税金の集められ方と使われ方(教科書画像)
2	・選挙の実態と、投票する必要性について考える。	○ 投票率のグラフからどんなことがわかりますか。 ● 20代の投票率が最も低く、60代の投票率が最も高い。 ○ 投票率のグラフからどんなことを考えましたか。 ● 若い人の投票率が低く、60代以上の意見が政治に反映されやすい。若い人の意見を政治に反映させるためにも、もっと選挙に行かなければいけないと思う。 ● 年々投票率が減少しているから、もっと選挙に行くようにしたい。 □ 投票率の推移(教科書画像)
3	・租税教室を通し、税の基礎知識について学ぶ。	○ 税金にはどんな種類があり、どのようなことに使われているでしょう。 ● 救急車や消防車は、こんなに値段が高いとは知らなかった。 ● 消費税以外にも、こんなに様々な種類の税金があるんだな。 ● みんなで助け合って生活するために、しっかり税金を納めることが大切だと思う。 □ DVD 「マリンとヤマト 不思議な日曜日」 □ 1億円レプリカ
4	・租税教室で学んだことを活用し、理想の街づくりを行う。	○ 理想の街に近づけるために、税金を使ってどの施設からつくりますか。 ● 子どもが過ごしやすいうちに、学校をたくさんつくろう。 ● 安心して生活できるように、病院や交番を増やすのはどうだろう。 ● 全部作ろうとすると、予算が足りなくなるな。 □ 税金を使って街を作ろう「ちびむすドリル」

【指導のポイント】≪1時間目≫

学校にも税金が使われていることに気付かせ、もし税金がなかったらどうなるかについて考えた。

【指導のポイント】≪2時間目≫

選挙の投票率を見せた際、若者の低さに驚いていた。なぜ行かないのかを考えた上で、若者が投票する大切さについて、考えを深めることができた。

【指導のポイント】≪3時間目≫

租税教室を通して、税についての知識の整理と再確認ができた。消防車の値段などのクイズを通し、日常生活の様々な場面で税金が使われていることを学んだ。

【指導のポイント】≪4時間目≫

自分が作った街を友達と比較することで、それぞれが何を大切にしたい街づくりを行ったのか、違いに気付くことができた。そこから、自分の考えに近い代表を選び投票することの大切さに気付くこと

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ 税金と自分たちの身近な生活をリンクさせながら学習を進めたことで、より実感をもって税について知ることができた。
- ◎ 4時間目の街づくりの学習では、つくった街をもとに班で話し合い活動を行った。人によって街に求める施設やサービスが違うことに気づき、より多くの人の願いを叶えるために、実際の社会では代表が話し合ってよりよい街づくりに努めていることを実感することができた。
- ◆ 学校や消費税など自分の生活と直接結びついているものはすぐに理解することができたが、復興や道路に使われている税金については、理解が難しい様子が見られた。生活から離れているものをどのように理解につなげるのが課題である。
- ◆ 子どもたちが住む小国町の税金の使われ方について考えさせたかったが、適切な資料を見つけることができなかった。自分の住んでいる町の実態とつなげることができれば、より理解が深まると思う。